令和6年8月23日

東京電力ホールディングス株式会社

代表執行役社長 小早川 智明 様

申し入れ書

福島県議会県民連合議員会

会長 瓜生 信一郎

東京電力福島第一原子力発電所 2号機からの
熔融核燃料（デブリ）取り出し中断に対する申し入れ

福島県議会県民連合議員会
会長 瓜生信一郎

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、同発電所は放射能漏れ事故を起こし、福島県民をはじめ国民、全世界に多大な不安と混乱、原子力政策に対する大きな不信をもたらした。ただ、事故以降、紆余曲折はありつつも収束に向けて従事している多くの作業員の日夜の尽力により、廃炉作業は着実に進展している。これについては、感謝と御礼を申し上げる。

廃炉作業の中でも燃料デブリの取り出しは、40年ともいわれる同発電所の廃炉作業にとって最重要作業である。今回のデブリ試験的取り出しは、その入り口となる重要な作業であり、安全を最優先にしながら慎重かつ的確、迅速に進め、初歩的なミスや人為的ミスを排除して準備しなくてはならない。

それにもかからず、デブリ取り出し装置を後方から押し込むためのパイプの接続順番の並びが違ったという「考えられないような単純ミス」とも言えるミスが発生し、作業が中断した。全世界から、その成否に注目が集っていただけに、取り出し作業以前の作業中断は、大変情けなく残念である。昨今のトラブル発生状況を踏まえると、県民に更なる不安と不信をもたらしたのは言うまでもない。

以上のことから、次の通り申し入れる。

記

- ・作業員同士の情報共有の甘さが一因と指摘されることから、ミスの原因を早急に究明し、同様のミスを二度と起こさないように、安全を最優先に作業の改善に全力を挙げること。

- ・あらためて県民目線にたった的確、迅速で分かりやすい情報発信に努めること

以上